

看護管理 第35巻 総目次

2025年(1～12月号)

表示は、著者名：題名、号数、掲載ページ。

特集

1月号

パワーを掌り、組織で活躍する 影響力を発揮し続けるために

高岡明日香：【講演録】書籍『組織の力学 パワーを掌る 成功し続けるための組織行動論』刊行記念セミナー—組織で奮闘するすべての方に、1, 12-26.

高岡明日香：フォローアップQ&A—『パワーを掌る』実践法—セミナー参加者からの質問にお答えします、1, 28-35.

実践コラム 『パワーを掌る』私の活用方法

嶋森好子：自分の経験を見直すための指針として、1, 36-37.

石川晶子：複数の上司それぞれに適したボス・マネジメントの実践、1, 37-38.

大西美穂子：イエスマンな私を変えた、絶妙な部下マネジメント、1, 38-39.

清水祐：コンフリクト・マネジメントは、日々の丁寧な相互作用の積み重ねである、1, 39-40.

時光さや香：コンフリクト・スタイル診断からの気づきと行動変容、1, 40-41.

川崎つま子：信頼関係を築き、未来へつなげるコンフリクト・マネジメント、1, 41-42.

守谷明子：後継者計画—看護部長の役割、1, 42-43.

2月号

包括的食支援における看護の役割 診療報酬改定を契機に、看護サービスの質を再考する

杉原多可子、小山珠美、竹市美加、会田薫子：【座談会】今こそ求められる包括的食支援—患者の生きる力を支える看護の役割とは、2, 106-113.

秋山智弥：【座談会を受けて】誰のためのケアか—看護が食べる支援をすることの意義、2, 114-115.

神保京美：【実践報告】伊勢原協同病院の取り組み—患者の摂食機能を包括的に支援するための院内におけるチーム連携体制の構築、2, 116-120.

石黒慎一：【コラム】スタッフの立場から見た包括的食事支援体制の実践、2, 120.

建山幸：【実践報告】桜十字病院の取り組み—包括的食支援の体制構築、2, 122-126.

杉原多可子：【実践報告】関西メディカル病院の取り組み—

時代を読む—患者の生きる力を支える看護管理者の役割、2, 128-135.

岸本真由美：【コラム】ICUにおける摂食機能療法の実践と展望、2, 134.

佐野宣子：【コラム】内科病棟でのミールラウンド実施の効果と今後の展望、2, 135.

3月号

看護師長と副看護師長のコラボレーションで全員が活躍する病棟チームをつくる！

「看護管理者フェス」事前アンケート結果レポート—看護管理者が抱える「チーム」に関する悩み、3, 188-190.

保田江美：【オープニング】看護管理を楽しく真面目に考える「看護管理者フェス」、3, 192-194.

保田江美：最高のチームをつくる！—その条件と機能させる方法とは、3, 196-200.

堀尾志保：全員活躍チームをつくる“リーダーシップ・シフト”、3, 202-210.

池田めぐみ：チームレジリエンス—困難と不確実性に強いチームのつくり方、3, 212-219.

「看護管理者フェス」事後アンケート結果レポート—「チーム」に関して、看護管理者が学んだことや今後活かしたいこと、3, 220-224.

4月号

看護管理者と事務部門の協働による質改善・経営貢献

田中将之：多職種協働による経営改革の推進と人材育成、4, 280-283.

日高武英、日高美晴：「全員参加型の病院経営」を目指す公立邑智病院の実践—管理会計「自立プロジェクト」を通じた経営改善と看護部門の取り組み、4, 284-292.

片岡聡、山本礼子、植田由加里、中島雄一、高村洋子：【実践報告】倉敷中央病院の取り組み—患者受け持ち表自動作成アプリ開発による業務効率化と酸素ボンベカードの開発による早期離床支援、4, 294-303.

中村典子、近藤理子、内藤貴也：【実践報告】聖隷浜松病院の取り組み—心不全地域連携プロジェクト—高齢心不全患者の転院を促進し、断らない医療の提供に向けた多部門の連携、4, 304-309.

内藤貴也：【コラム】聖隷浜松病院における経営企画室の役

割. 4, 310.

田中亜実, 込山恵子, 山内淳子, 中村加奈子, 谷部聡, 利根川崇:【実践報告】聖路加国際病院の取り組み—スマートフォンを活用した妊婦への情報提供システムの導入. 4, 312-316.

5月号

育ち合う組織をつくる 新人と教育担当者を支える体制の再構築

内藤知佐子: コロナ禍による変化を踏まえたチーム支援型教育への転換—人材育成を基軸とした組織開発を. 5, 370-374.

卯川久美: 新人看護師の組織社会化におけるプロアクティブ行動をどのように支援するか—コロナ禍で入職した新人看護師の組織社会化に向けた考察. 5, 376-379.

山本明美:【実践報告】浜松医科大学医学部附属病院の取り組み—新人看護師のローテーション研修. 5, 380-384.

丸山真紀子:【実践報告】埼玉県済生会加須病院の取り組み—院内教育のチーム支援型教育体制への転換—指導者に必要なマインドとスキルを共通言語にする取り組み. 5, 386-389.

森恭子:【実践報告】鹿児島市立病院の取り組み—プラチナアソシエートナースがかなえる新人看護職員の個別化教育と支援. 5, 390-393.

6月号

看護師長のための組織分析と目標設定 スモールステップで把握する課題の本質

北浦暁子: PART1—組織課題の全体像をどう捉えるか. 6, 454-460.

北浦暁子: PART2—現実から理想に向かうプロセスを構造化する—「コアフレームシート」の活用. 6, 462-465.

北浦暁子: PART3—組織分析から得られた結果をどう活用する?—現場の改善・変革につなげるためのポイント. 6, 466-469.

北浦暁子: PART4—困難な時代のリーダーに真に必要な具体的なアクション—現場に必発の意見対立を乗り越え, win-win の着地点を見いだす. 6, 470-473.

7月号

原因追及ではなく「うまくいったこと」に着目する探求アプローチのすすめ

長谷川剛, 芳賀繁:【対談】探求アプローチ発展と実践の可能性を探る. 7, 540-550.

長谷川剛: これからの医療安全対策に取り入れたい視点: 探求アプローチ. 7, 552-560.

橋本廸生: [コラム]「探求アプローチ」への期待. 7, 562-563.

小林美亜: 探求アプローチの活用を看護教育および看護管理

の観点から考える. 7, 564-567.

長谷川剛: ポジティブアプローチから探求アプローチへ—研修の変遷と探求アプローチの実践. 7, 568-574.

辰巳陽一:【実践報告】近畿大学病院の取り組み—大学病院におけるポジティブアプローチの実践. 7, 576-580.

佐藤恭江:【実践報告】岡山協立病院の取り組み—Good job 報告書の導入とその影響. 7, 582-585.

8月号

看護管理者のための EBP 入門 質改善の組織文化を加速させるリーダーシップ

酒井郁子: 看護管理者にとっての EBP. 8, 634-639.

友滝愛: 看護管理者が知っておきたい EBP—よりよいケアの探求にチームで取り組むために. 8, 640-647.

保田江美: 看護管理者に求められるリーダーシップ—EBP を効果的に実装し, 定着させるために. 8, 648-653.

横田慎一郎, 後藤靖江, 大野純子: 看護管理における目標管理・評価に施設内データを活用する. 8, 654-657.

藤澤陽子, 箭内博子, 新井加代子: 千葉大学医学部附属病院看護部が取り組む「EBP 実践」と「人材育成」—日々の実践を問い直し, 再構築するための継続的なプロセス. 8, 658-662.

塩田美佐代:【実践報告】真養会・きせがわ病院の実践—EBP を実装し多職種で身体拘束ゼロを目指す—患者の尊厳を主軸にした最善のケアを提供するために. 8, 663-667.

呑香美佳子:【実践報告】八戸市立市民病院の実践—急性期病院での高齢者看護実践の改善に向けた身体拘束縮小への取り組み. 8, 668-670.

榎木野桃子:【実践報告】タムスさくら病院川口の実践—継続的 EBP の実装で実現した高齢者の地域移行. 8, 671-674.

大野直子:【実践報告】横須賀共済病院の実践—身体拘束最小化に向けた取り組み. 8, 675-677.

佐伯昌俊: EBP 推進における CNS の役割—海外事例に見る実装支援者としての可能性. 8, 678-681.

9月号

どこからはじめる? 看護 DX 自組織の課題の見直しと人材育成

瀬戸僚馬: 看護 DX が導く, よりよい未来—組織の姿と必要な人材像を考えるための基礎的論点. 9, 736-745.

田中いずみ: DX のための組織づくりと人材育成—データに基づいた看護評価でベストプラクティスを. 9, 746-753.

松尾葉月: DX と看護現場をつなぐ—NTT 東日本関東病院医療情報管理部門における業務の実践. 9, 756-760.

西田菜都子: スマートフォンを用いたバーコード投薬管理—外来における注射の照合・実施登録をより安全で効率的にした事例. 9, 762-767.

後藤佳子：看護実践と情報システムを橋渡しする役割の重要性—情報・クリニカルパス担当の経験から考察する看護DX人材育成. 9, 768-772.

瀬戸僚馬, 田中いずみ, 松尾葉月, 西田菜都子, 後藤佳子：【パネルディスカッション】DXの導入・定着, どうする?. 9, 774-779.

10月号

更年期世代への支援が持続可能な組織をつくる 看護管理者のウェルビーイング

【覆面座談会】職場に潜む見えない不調「プレゼンティイズム」を可視化する—更年期世代の「働き続ける力」をどう支えるか. 10, 842-848.

小宮ひろみ：【インタビュー】女性の健康総合センター創設の意義から考える—ライフコースアプローチ視点での「更年期世代」職員支援. 10, 850-856.

高山賢一：【インタビュー】「なぜ、女性は認知症発症リスクが高いのか？」—更年期以降の健康と認知症予防 性ホルモン研究の最前線. 10, 858-862.

長井万恵：周閉経期の症状に関する研究から考えるライフコースアプローチの視点—女性ホルモンの影響による更年期以降の疾病の予防・治療に資するライフコース研究および日本ナースヘルス研究（JNHS）における更年期に関する研究より. 10, 864-868.

松浦悠人, 安野富美子：鍼灸による更年期世代へのケア—研究によるエビデンスとセルフケアのヒント. 10, 870-875.

11月号

身体拘束最小化を実現するための倫理的問い 診療報酬改定を受け、踏まえておくべき視点・論点

桐山啓一郎：身体拘束最小化に向けた看護実践のあり方とは—倫理的な問いかけが育てる感性. 11, 938-943.

三浦直子：倫理的な組織文化への変革—意思決定支援と身体的拘束最小化に向けて. 11, 944-947.

南崎真綾：急性期病院入院高齢者の身体拘束を最小限にするための看護管理指標. 11, 948-954.

高橋陽子, 桐山啓一郎, 南崎真綾：【インタビュー】身体拘束最小化を組織でかなえる看護管理者は、何を見ているのか. 11, 956-966.

若山朋代：【コラム】「同意書」の法的位置づけとは—法的責任に萎縮しない医療・ケアのために. 11, 968-969.

佐藤晶子：【実践報告】聖隷三方原病院の実践—倫理的ジレンマを乗り越える多職種カンファレンスの意義—多様な視点からの情報共有で、身体的拘束が解除できた事例. 11, 970-973.

福島麻悠子：【実践報告】岐阜勤労者医療協会みどり病院の実践—「安全に透析を行う」ことは高齢透析患者の何を守ることか—透析センターにおける身体的拘束からの気づき. 11, 974-977.

金子多恵子：【実践報告】久美愛厚生病院の実践—「ここに座っていてね」からの脱却—問いを立てることで見かたとケアの姿勢が変わった事例. 11, 978-981.

高木みちる：【実践報告】岐阜病院の実践—「これはドラッグロックではないか？」—一日中の観察から気づき、多職種による検討でドラッグロック解消へとつながった事例. 11, 982-985.

12月号

キャリア・カルトグラフィ 目的地への地図を描くように、主体的にキャリアを設計する

今井陽子, 川端京子, 池田真理：キャリアを主体的に設計し、戦略的に描くという視点—キャリア・カルトグラフィの全体像. 12, 1034-1041.

スーザン・フィーサム, 池田真理訳：キャリア・カルトグラフィの特徴とそこから得られた学び Career Cartography Characteristics and Lessons Learned. 12, 1042-1045.

國江慶子：未来を描き、過去からの経路と環境をつなぐ—寄り道、直行、回り道、近道—全ての道を力に. 12, 1046-1049.

川端京子, 清水裕子, 廣川友香, 岡本恵子, 小川明佳：キャリア・カルトグラフィを活用した看護管理者のキャリア形成支援—池田ゼミから学会企画, 研究への発展. 12, 1050-1053.

他者との対話が、キャリアの地図を動かす—社会につながる目的地とマップを描き出す探求の時間. 12, 1054-1057.

実践コラム キャリアの地図を描いて見えた景色

森崎真由美：キャリア・カルトグラフィがつかないでくれた過去・現在・未来. 12, 1058-1060.

今井陽子：中堅看護師への支援を考える—キャリア・カルトグラフィを通しての気づき. 12, 1061-1063.

岡本恵子：私のキャリアの描き直しの旅—キャリア・カルトグラフィとの出会い. 12, 1064-1066.

小川明佳：キャリアの方向性を考える—キャリア・カルトグラフィに取り組んでみて. 12, 1067-1068.

福井純子：これからの時代に求められる看護職のキャリアを志向できるツール. 12, 1069-1070.

池田真理：社会の文脈にある目的地を目指そう. 12, 1071.

特別記事

島田陽子, 菅井亜由美：独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）における取り組み—看護の質向上のための人材の確保と育成：JCHO ナース1.3万人総活躍プラン. 1, 46-52.

松尾睦：認知的徒弟制の6ステップを活用した「急変時対応の人材育成」—奈良県総合リハビリテーションセンターの事例. 3, 228-234.

瀬戸僚馬, 後藤佳子, 滝沢礼子, 山口真弥：【座談会】看護DX人材の育成—質改善に向けたデータマネジメントの意

義を再考する。4, 320-329.

永田明, 今井奈保子, 大久保真理, 矢野史加, 相原ひろみ:【座談会】愛媛大学大学院「病院で教育を担当する看護師のための看護教育プログラム」. 5, 394-403.

奥野善彦, 秋山智弥, 荒井有美:【座談会】人は変わる, 組織が変わる—旅館・ホテル再生の経験から学ぶ. 6, 476-484.

小笠原雅彦:【インタビュー】地域包括ケアにおける中小病院の機能と実践—外来・在宅・入院医療をワンストップで提供する同善病院が目指す「暮らしの中で必要な医療」. 6, 486-490.

川村遼平, 小笠原彩花:[Column] 同善会の地域活動とコミュニティ支援室. 6, 490-492.

林千冬:「医療格差」への私の挑戦—看護管理・政策学における30年の成果と課題. 8, 682-686.

安藤弓子:東邦大学医療センター大橋病院の理念に基づく取り組み—看護師が誇りを持ち生き生きと働ける環境づくりにつながった身体拘束最小化の実践. 9, 780-788.

木下晋, 石垣靖子, 濱口恵子, 岡山慶子:【公開収録】鼎談&自画像ワークショップ—「いのちに寄り添う看護師としての『私』を見つめる—そこから見えるケアの本質」開催. 9, 790-797.

鉄谷祥子, 加納江利子:110名のスタッフ異動を伴う病棟再編—その戦略的意図と成果を振り返る. 10, 878-883.

中根幸子, 伊東都:1病棟の工夫を全病棟に広げ実現した自組織らしいチーム支援型教育体制. 10, 884-889.

松岡遼平:専門的なキャリアから管理職へ—看護実践・看護管理実践の変化とその先に見えた景色. 11, 986-989.

特別企画

看護系学会等社会保険連合

設立20周年記念特別企画 看保連20年のあゆみ

山田雅子, 迫井正深:(1)【対談】持続可能な医療・介護提供体制を構築するために看保連が果たすべき役割とは. 7, 588-592.

古橋美智子:(2)【インタビュー】看保連のあゆみとこれから. 8, 690-693.

木村弘江:(3)【インタビュー】看護部長会が果たす役割と意義. 9, 798-801.

井部俊子:(4)【インタビュー】組織のさらなる発展に向けて—看保連が担う役割と三保連の協働. 10, 890-894.

実践報告

中谷安寿, 谷浦葉子, 村田泰三, 平尾幸美, 岩崎朋之:電子カルテシステムを活用した業務の効率化—情報担当看護師による退院支援に関する取り組み. 3, 236-241.

松井弘美, 蔵谷和代, 松浦紗也加:手術室転入看護師の適応を促進する職場風土変革の試み—心理的安全性を高める教育方法の定着を目指して. 5, 404-409.

TOPICS

山根康子:外国人患者対応力向上に向けた看護部の戦略とその成果. 1, 54-58.

NAレポート

看護師が「定着してしまう」採用面接とは?—医学書院Webセミナーレポート. 2, 140.

第29回日本看護管理学会学術集会開催に向けて—学術集会長・田中いずみ氏に聞く. 8, 688-689.

山田真愛:誰もが通る変化の時期を, あなたのそばで支えます—更年期を1人で抱え込まないための「オンライン診療」という新たな選択肢. 10, 876-877.

第15回日本在宅看護学会学術集会への誘い—日本在宅看護学会理事長・山田雅子氏と, 集会長を務める藤野泰平氏に聞く. 11, 990-991.

巻頭シリーズ

臨床と研究をつなぐ

若手研究者から看護管理学の発展に向けて

磯部環:(1) 部署の活性化と看護師の自律的なキャリアの実現を目指して—看護師長のビジョンおよびエンプロイアビリティの視点から. 1, 1-6.

木田亮平:(2) 看護職がいきいき働ける持続的な組織・看護提供体制を目指して—幅広い視点による多様なアプローチ. 2, 95-100.

長井聡子:(3) 看護師がいきいきと働ける環境づくりに向けて—キャリア初期の看護師のワーク・エンゲイジメント向上につながる尺度開発. 3, 177-182.

高橋好江:(4) 看護職の多様な働き方を支えるマネジメントの視点—研究と実践の架け橋として. 4, 269-274.

佐伯昌俊:(5) 実践知と研究知の往還—看護の質向上に貢献する看護管理学の視点. 5, 359-364.

藤芳絢乃:(6) 患者安全と看護師の心理的安全性を考える—実習での気づきから研究へ, そして未来への展望. 6, 445-449.

田中慎吾:(7) 転床・転棟, 転院・退院 患者さんの移動をテーマに—変化の激しい社会や医療環境に対応する研究の視点. 7, 527-532.

南崎真綾:(8)「老年看護×看護管理」で身体拘束最小化へ—臨床領域のテーマに看護管理の視点でアプローチすることで開ける道. 8, 623-628.

井上真帆:(9) 研究を臨床に還元する研究者としての役割—COVID-19患者の看護に従事する看護師に着目した研究で学んだ看護管理学研究の真価. 9, 727-731.

石井馨子:(10) 看護の力が活きる組織とは—一人と人の微細な現象に光を当て言語化・理論化していく看護管理学研究の醍醐味. 10, 831-836.

船越千佳:(11) 日々の実践の支えとなる看護管理学の研究経験—多様なキャリアパスが看護の質を高めると信じて.

11, 927-932.

原ゆかり：(12) ミッションは「全ての看護職が生き生きと働き続けられること」—成果の「社会実装」までを目指した研究と企業の挑戦. 12, 1023-1028.

連載

おとなが読む絵本

ケアする人、ケアされる人のために

柳田邦男

(216) 海鳥が語ってくれる人類生存の危機の縮図. 1, 86-87.

(217) あべ弘士 シートン動物記を描く. 2, 168-169.

(218) 読み聞かせをするやさしきゴリラよ. 4, 350-351.

(219) 子どもたちの目の見つめる先にあるものよ. 5, 434-435.

(220) 春の陽光、舞う昆虫たちとの語らい. 6, 518-519.

(221) 時代の“変化”と“無変化”への感慨. 8, 720-721.

(222) 幼き日のひそかな空想世界の会話. 12, 1098-1099.

読んでおきたいビジネス書

間杉俊彦

(45)『組織の力学 パワーを掌る 成功し続けるための組織行動論』. 1, 70-72.

(46)『駆け出しマネジャーの成長論 7つの挑戦課題を「科学」する』. 2, 156-158.

(47)『プロカウンセラーの共感の技術』. 3, 254-256.

(48)『いい質問が部下を動かす』. 4, 342-344.

(49)『冒険する組織のつくりかた 「軍事的世界観」を抜く 出す5つの思考法』. 5, 426-428.

(50)『歩く マジで人生が変わる習慣』. 6, 514-516.

(51)『働くということ 「能力主義」を超えて』. 7, 610-612.

(52)『dare to lead リーダーに必要な勇気を磨く』. 8, 712-714.

(53)『自己肯定感が高くないとダメなのか』. 9, 818-820.

(54)『若者が去っていく職場—人事部は知らない！若者の離職の本音』. 10, 912-914.

(55)『死別の悲しみに向き合う グリーフケアとは何か』. 11, 1008-1010.

(56)『カウンセリングとは何か 変化すること』. 12, 1090-1092.

これからの臨床現場を支えるために

COVID-19を経験した米国の看護現場から

岩間恵子

(37) 職種を超えてお互いを支える・2—エンプロイヤー・リソース・グループ活動とその実践. 1, 82-85.

(38) 米国におけるトラベルナースの現状. 2, 164-167.

(39) 米国の看護師がトラベルナースを選択する理由. 3, 258-261.

(40) 米国のトラベルナースが直面する課題と今後の展望. 4, 346-349.

(41) 米国における DNP (Doctor of Nursing Practice) の現状と課題. 5, 430-433.

(42) 米国における DNP (Doctor of Nursing Practice) の課題と今後の展望. 6, 510-513.

(43) シェアド・ガバナンス活動を通して院内心停止における患者アウトカムを向上させる. 7, 614-617.

(44) シェアド・ガバナンス活動を通して院内心停止における患者アウトカムを向上させる・2. 8, 716-719.

(45) 看護師長のウェルビーイング. 9, 822-825.

(46) 電子カルテの利用と情報担当看護師の役割. 10, 918-921.

(47) 身体拘束減少に向けての試み. 11, 1014-1017.

(48) 看護臨床に対する感謝と称賛を形にする—デ이지ー賞から学ぶ. 12, 1094-1097.

政策をヒントに、看護管理をブラッシュアップ

小野田舞

(12) 診療報酬の構造と仕組み⑥—特掲診療料の算定要件—在宅療養指導料を例に. 1, 60-61.

(13) 産科医療—制度上の特殊性. 2, 142-144.

(14) 介護保険制度を知る. 3, 244-246.

(15) 介護保険制度を知る part2—要支援・要介護の状態区分と介護保険で受けられるサービス. 4, 338-341.

(16) 介護保険制度を知る part3—看護小規模多機能型居宅介護（看多機）について. 5, 416-418.

(17) 介護保険制度を知る part4—訪問看護①. 6, 506-508.

(18) 介護保険制度を知る part5—訪問看護②. 7, 594-596.

(19) 医療計画と地域医療構想. 8, 694-696.

(20) 2040年を見据えた新たな地域医療構想について. 9, 802-804.

(21) 経済財政運営と改革の基本方針（通称「骨太の方針」）を読む. 10, 896-898.

24時間戦えません 看護職と睡眠の深い世界

柳沢正史：(11)【インタビュー】柳沢正史先生が解き明かす睡眠研究の最前線と看護実践への示唆. 1, 74-80.

若村智子：(12) 体内時計が鼓動するリズムの不思議. 2, 160-163.

1人ひとりの看護実践論と概念化能力を育む

松本喜代子、本館教子、津田泰伸：(10) キャリア初期から中期にかけての看護観の形成と発展深化への支援—個人の経験値を共有する仕組みを構築する. 1, 62-68.

陣田泰子、本館教子、津田泰伸：(11) 看護実践の概念化促進学習システムとしての陣田塾. 2, 146-153.

本館教子、津田泰伸：(12) 学習する組織づくり. 3, 248-253.

データをチカラに

看護の質向上のための電子カルテデータ利活用術

松本聡子, 秋山剛, 長坂雄太: (1) 看護の質の可視化が必要
なわけと, データ可視化のコツ. 4, 332-337.

松本聡子, 秋山剛: (2) データの層を揃えて可視化しよう.
5, 420-425.

松本聡子, 秋山剛, 神保勝也: (3) データに適したグラフを
選ぶ方法と, データを集める際のコツ. 6, 500-504.

松本聡子, 秋山剛, 李慶姫, 今中雄一: (4) データ源をどう
選ぶか. 7, 598-603.

松本聡子, 秋山剛, 折井孝男: (5) 電子カルテデータの利活
用のコツー「コード」を利用する. 8, 698-704.

松本聡子, 秋山剛, 横田慎一郎: (6) 利活用しやすいよう
データを整える方法. 9, 806-812.

松本聡子, 秋山剛, 岩穴口孝: (7)「日時」のデータの扱い方
①. 10, 900-905.

松本聡子, 秋山剛, 岩穴口孝: (8)「日時」のデータの扱い方
②. 11, 994-1001.

松本聡子, 秋山剛, 岩穴口孝: (9)「日時」のデータの扱い方
③. 12, 1078-1083.

ウェルビーイングが導く患者中心の医療の未来

清水幸裕, 前野マドカ, 秋山美紀: (1) 医療の目的をウェル
ビーイングから再考する. 5, 412-415.

前野マドカ, 清水幸裕, 秋山美紀: (2) ウェルビーイングと
は何か, 概念を整理するー内面の充実および外界との調和
を目指して. 6, 494-498.

秋山美紀, 清水幸裕, 前野マドカ: (3) コミュニティとウェ
ルビーイングー地域の視点で患者の幸せを捉える. 7,
604-608.

清水幸裕, 前野マドカ, 秋山美紀: (4) ウェルビーイングの
視点から考える患者の最善の利益ー臨床倫理の観点から.
8, 706-710.

岡山容子, 清水幸裕, 前野マドカ, 秋山美紀: (5) 人生の終

末とウェルビーイングー死を自然なものとする視点から
の安寧. 9, 814-817.

前野マドカ, 清水幸裕, 秋山美紀: (6) ケアする人のウェル
ビーイング. 10, 906-910.

安井絢子, 清水幸裕, 前野マドカ, 秋山美紀: (7) ケアの倫
理から捉えるウェルビーイングーケアされる人(障害当事
者)の視点から. 11, 1002-1006.

佐渡洋伸, 清水幸裕, 前野マドカ, 秋山美紀: (8) 行政は
ウェルビーイングにどう取り組むかー「幸せ人口1000万」
を目指して. 12, 1084-1088.

危機発生を想定した看護管理に

パラダイムシフトが起きている!

知っておきたい「クライシスマネジメント」

内木美恵

(1) 危機発生“後”の看護提供維持を目指したマネジメン
トとは. 12, 1072-1077.

書評

田中いずみ:《看護管理まなびラボ BOOKS》組織の力学ーパ
ワーを掌るー成功し続けるための組織行動論. 1, 44.

三田村七福子: LGBTQ+の健康レポートー誰にとっても心
地よい医療を実装するために. 2, 138.

徳田安春: 明日からの診療にきつと役立つ!ー医学のトリビ
アーエビデンスに基づく患者さんからのシンプルな質問へ
の答え方. 6, 499.

酒井郁子: ケアの意味を見つめる事例研究ー看護実践の知を
探求する研究方法論. 9, 805.

明智龍男:「生きる!」を支える ACP. 10, 899.

桜井なおみ:「生きる!」を支える ACP. 11, 993.

川崎つま子:《看護管理まなびラボ BOOKS》協奏する看護組
織をつくるー地域と病院と現場が自律して響き合うため
に. 11, 1007.